あいの里

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	なぜグループホームケアなのかという事をスタッフで確認しあい、スタッフの支援が入居者本位、地域との係わりあいを多く持てるような事を念頭においた理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1．入居者に安全で衛生的な場所を提供して家庭生活の延長ケアをして、楽しみ　　のある安穏な生活の継続を提供していきたい。 2、地域と孤立せず、地域住民の方がいつでも立ち寄ってくれ交流できる楽しみの場所にしていきたいと思う。 3、入居者、スタッフが相互に尊重し、思いやりを持って楽しみのある日々を送れるようにケアをしていきたい。というホーム理念を日常的に話し合い実施している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	随時、家族便りを作成し日頃の生活状況や行事等を家族に報告している。又地域の医療機関、学校、居宅介護支援事業所、行政、包括センター等に理解してもらえるようホームの広報誌等を通じ連携を図っている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通学途中の小学校の児童がトイレや電話を借りに立ち寄り自然と入居者の方とお喋りする場面がある。又近くの田んぼの持ち主が暑い時に「クーラーにいれて」と休憩に来ることがあり、お茶を飲みながら入居者とお喋りしたり、その人の作ったミカンを買ったりして地域の人と交流をしている児童、生徒を守る「きしゅう君」の家にも参加し、通学の児童、生徒さんにも立ち寄りやすい地域に開かれた場所であるようにに配慮していきたい		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の神社の餅投げ、小学校での安原地区自治会主催の消防訓練の参加やあいの里で夏祭りを開催し地域住民の協力や参加をしてもらい共に交流、楽しんでいる。又近所の住民に野菜を分けてもらっている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や近くを通りかかった人や高齢者等の相談窓口を設置し、いつでも対応し地域住民を支えられるような体制作りをしている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームのスタッフが全員で自己評価を行い、自己評価をする事によって新しい気づきや課題を見つけ改善するようにとりくんでいる。	○	外部評価で学んだ事、気付いた事をケア会議や日頃の話し合いの中で取り入れる事でスタッフが承知し、より良いケアとなるように取りくむ努力をしており続けて行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回開催し、グループホームでの活動報告、入居者支援の取組み、地域への働きかけ等を民生委員、家族等を交えて意見を交換し、管理者会議を通じて日常のケアに反映できるように取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携を取り自施設のケアの方針、ケアする中でのトラブル、介護保険制度について等を常に報告する事により自施設と市町村や地域包括センターとの連携を図り、ホームの透明性を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業や青年後見制度を必要とする入居者者がいないためあまり理解できていないが、必要時には行政とも連絡調整を行いながら実施していきたい。	○	勉強会を開催し職員の理解を深めそのような事態が起きた時に対応できるようにしたいが日頃の話し合いの中で知る程度で勉強会を開くまでになっていない。十分な知識を得るように努力していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者への声掛け、コミニュケーション等が雑になり言葉の虐待にならないように、つねに日頃の話し合いやケア会議、管理者会議も含めて話し合っている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書、契約書については」十分説明を行なっている。その際家族からの不安、疑問点等ヒアリングを行い納得したうえで入所して貰えるように支援している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情、ご意見箱を設置しており、投函して貰ったり、家族の訪問時や電話連絡をする事で意見交換を行なっており、その都度スタッフ内で話し合い周知徹底し入居者の日常生活の支援に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	不定期的にだが家族にホーム便り等を発行して日頃の様子を知らせたり、随時電話連絡をしたり、面会時にも日常生活の様子等を報告している。	○	家族へのホーム便りの発行の回数を増やしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時や家族会を実施し、家族等が意見、不満、苦情等を話し合える機会を設け入居者の家族との」意見交換を図っており、家族等が意見、不満、苦情等あればスタッフ内で解決したり、上司に報告して対応策を考えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の管理者会議、ケア会議等の中でスタッフが自分の持っている情報等意見交換をし運営、ケアにいかしている。又その都度スタッフの意見を管理者が吸い上げ、入居者主体のケアとなるように心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制はスタッフに事前にスタッフに休日、勤務時間等の希望を聞き勤務体制表を作成している．又行事や利用者の状態に変化があるケースには、勤務調整を柔軟に行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時にはスタッフ紹介をはじめとして、異動したスタッフと入居者が相互に馴染みの関係が築けるように管理者も含め全員で支援している。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じてグループホーム連絡会の研修、認知症実務者研修、リーダー研修、管理者研修等、段階に応じて積極的に研修に参加をし、現場のケアでいかしていけるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の意見交換会を通じ同じグループホームケアに携わるものとしての意見交換を行なっている。	○	前回の外部評価で事業所内の意見交換は行はれているが、一歩進んで他事業所との相互訪問を行なう等の機会を持つ事でサービスの質の確認になると指導あるもまだ実施にいたらず交流機会を考えていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者とスタッフが常日頃話し合いの機会を持ち、スタッフがストレスをためながら仕事を行なわないようにしている。又、親睦会を行い法人全体の職員で話し合う機会をもっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己申告書及び人事考課表を用いて各職員の意見や要望を運営者が把握できるようにしている。又運営者がヒアリングを行い向上心を持って仕事に打ち込めるよう支援している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時、利用者本人と面談する機会を必ずもうけ、グループホームに入所する事が利用者の精神的負担とならないようにしている。又事前に本人と一緒に家族に実際に見学していただくようにお願いしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時、利用者本人を交えて家族と面談を必ず設け、十分に情報交換をしその人らしい暮らしができるように日常生活のニーズの把握に努める事により信頼関係を築いている。又できるかぎり家族に面会に来てもらいスタッフや他の入居と交流できるよう支援をしている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居相談時には、入居者のニーズをとらえながら、グループホームに入所時にはリロケーションダメージが生まれないように他のサービスを含めた対応を本人、家族及び上司、ケアマネジャーと相談して支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の希望があれば入居前に本人のホームの見学等を受け入れる体制がある。又入所に際して本人が今迄自宅で使用していた馴染みのある家具、道具類を持って来てもらい馴染みのある環境で暮らしてもらうようにし、在宅で過ごしていた環境の継続につとめている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活を送るという観点から、スタッフが入居者の方に家事や色々の生活の先人の知恵等教えて貰ったりしながら相互で支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	随時、家族と連絡を取り、スタッフと家族が一緒に入居者を支えていけるよう入所時に家族に説明して納得してもらい、良い関係を続けられるように協力してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	グループホームに入居する事で家族が余裕を持って本人との関わりが増えたり、疎遠の家族に関しても日常生活の生活場面の報告をする事で本人と家族との関係が修復できるように支援している。、		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等が訪問時はゆっくりと居室でお茶を飲みながら過ごしてもらえるように配慮している。又本人が希望時住み慣れた自宅等にもスタッフと一緒に行く事もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が日常生活を過ごす中で、車イス押してあげたり、話し相手になったり、お茶を持っていってあげたり等自然にお互いを支えあう場面をみる事が多い。又意志疎通が難しい時でもスタッフが入り、交流できるように支援している。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても継続的に関われるように入居前の担当ケアマネジャー等と連絡を取り合い関係を継続している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族と入居前や面会時に話し合い本人や家族の要望、希望を聞き取り意向に添い利用者本位となるようにケアマネジメントをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の生活歴や生活スタイル、これまでのサービス利用の経過、意向等の把握に努め今迄の暮らしが継続できるように介護計画に反映させている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各入居者の得意な事を把握し、得意分野で活躍して貰い、又できる事はしてもらい日常の中で体を動かし、楽しみや張り合いのある暮らしができるように努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフと話し合い、主治医の意見も取り入れ健康、衛生、安全等に配慮し、利用者本位になるように計画を作成するように心掛けている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一回のケア会議での話し合いや日頃のケアの中での気付き等で本人の状態の変化等を話し合い、又センター方式でのチェック表に記入しプランの見直し等をおこなっている。又入居者の状態に変化が見られる場合は家族、主治医に相談しプランの見直しをし新たな計画を作成している。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、センター方式のチェック表、申し送りノート、ヒヤリ　ハットノート等を利用し職員間で情報を共有し日々のケアに活かし介護記録の見直しに活用している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を算定して、訪問看護ステーションと契約を結ぶことにより、利用者及び利用者の家族がターミナルケアを希望すれば対応できるように支援している。又、医療機関においても整形外科、内科、皮膚科、脳神経外科、歯科の医師が必要時に往診してもらえるよう、ホームからアプローチしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会へ地区民生委員や自治会からの参加をしてもらったり又、小学校の児童の訪問をしてもらい交流したり、駐在所からの適宜の巡回やホームからの地域の消防訓練等への参加をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の意向や必要に応じて、家族や地域の医療機関、福祉業者、ケアマネージャーと話し合い本人の希望に添って他のサービスを利用できるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護事業や青年後見制度を必要とする入居者者がいないが、入居者の状態に応じて生活保護者のオムツの支給の利用手続き申請や本人への面接、地域の一人暮らしの高齢者の支援方法等地域包括センターと連携を取っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される主治医の定期的な往診や他の専門医の往診等積極的に受け入れている。また緊急時、専門医への受診が家族できない場合はホームで対応している。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人、家族の希望で専門医に往診してもらっている入居者もいるが、月に2回の主治医の定期的な往診時に日常の生活の気付きを報告相談し、指示をもらい、家族の協力のもと専門医に受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要時には当施設の看護師との協力体制も整っており支援してもらっている。訪問看護ステーションの看護士による健康チェックをしてもらい、夜間入居者の急変時は相談等も行い、次のステップに繋げている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院にスタッフがお見舞いに行ったり家族、医師、看護士、相談員と意見交換しながら状態把握に努め、早期退院ができるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については入居時に説明し納得してもらい、重度化になった時は早い段階から主治医、家族と話し合う機会を持ちこれからの方針等の方向付けをしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ないことについては常に入居者家族と話し合い共有している。又主治医、家族、訪問看護ステーションと常に連携を取り、入居者の状態の変化に対応できるように支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時、在宅復帰、入院等の場合は相談員、地域のケアマネージャー、入院先の職員等と協力し利用者の情報を提供しリロケーションダメージを防ぐように努めている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの入居者の人間性を十分に把握、理解するように努め、その人の誇りやプライバシーを損ねないように声掛けや対応をしている。又、介護記録や個人の情報は鍵のついた戸棚に保管してスタッフ以外取り扱えないようにしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に入居者が自己決定を行なえるようにその人にあった説明や声掛けを行なっている。入居者とスタッフがどんな事でも話し合える関係作りを心掛けるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者各個人の希望にそった個人のペースで日常生活が送れるように、日々の状態を把握し、その時々にあった声掛けをし安穏な生活を送れるようにしている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	認知症が進行し、暑さ、寒さや季節感もずれてきている人も多くなってきているが、本人の感性を尊重しながらその人らしい身だしなみができるように支援している。理容は現在、個人の希望はなくホームでの訪問理容を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作るにあたって旬の食材を使用するようにし、又季節の行事ごとを大切にして作り、入居者の出来る方には下ごしらえや盛り付け、後かたずけ等手伝ってもらいながら一緒に作業し、食事は会話を楽しみながらするように心掛けている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物、果物など色々用意し楽しんでもらっている。又現在はいないが煙草、お酒等の嗜好のある方には対応できるようにしている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し各個人のペースに合わせ排泄の失敗の軽減ができるよう支援している。又、プライバシーに配慮し誘導、介助等声掛けを行うようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の意向により毎日入浴したい人、夜間に入浴したい人等は希望に沿っている。又好みの温度等を把握しており入浴の支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活習慣にも配慮し、適度な休息を取りながら、メリハリのある日中を過ごし夜間眠れるように支援している。又、夜間眠れない様子だったら、スタッフとお茶を飲んだり、お喋りをして気分が落ちつくようにして睡眠に繋げている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の趣味や得意な分野、出来ること等を把握し各人その日の状態を見ながら日常生活の中で活躍してもらい、楽しみ事や気晴らしになるように繋げていけるように支援をしている。	○	買い物、花作り、掃除、洗濯、洗濯ものたたみ、食事作りの協力、歌を唄ったり、折り紙やおはじき等のレクリエーション等日常生活に楽しみごとを持てるように生活していただくようにしており、これからも続けてより多く取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は失くしたり、盗られ妄想が出てきたりするので、買い物はホームが立替えている。又預かり金は必要時本人に渡している。金銭に執着心がある方には家族と相談をして最低額を所持金として自己管理して貰っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、外食等入居者の希望する所へできるかぎり出かける機会を増やしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者とスタッフ、又家族の会にも相談し、月に一回の外食や花見等の季節の楽しみごと、地域の行事ごと、ドライヴ等希望のある所へ外出する機会を作っている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話をかける範囲は事前に家族に確認してもらっているので電話をかけてもらっている。手紙のやりとりは本人の身体状況により書けない時は本人に聞き取りしスタッフが代筆し投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただき、又居心地良く過ごしてもらえるように、入居者の普段の様子を伝えたり、茶菓を出したり本人と面会の方だけで楽しい時間を過ごしてもらえるように配慮している。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の中には、歩行不安定で自力では歩行が困難にもかかわらず常に立ち上がり、歩き出そうとして目が離せない方もいるが、身体拘束の禁止は理解しているので色々ケアを考慮し支援している。又日頃の会話やケア会議の時に話し合い、身体拘束をしない支援をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの入居者の精神的ダメージを理解しているので鍵はかけていない。玄関、裏口の出入りは気をつけるようにしている。時には他の入居者が出て行ったことを気ずき教えてもくれる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは入居者全員がどこにいるか把握し職員間で伝えあっている。スタッフの目の届かない死角の部分も多いため、随時見守り等を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の服薬は施錠できるキャビネットに保管し、服薬時はその都度手渡し服薬確認している。洗剤、漂白剤等は鍵のかかる部屋に保管している。普段使用している物はシート等で覆い目につかないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルや消防訓練、研修、普段の話し合いの中で知識をつみ対応できるように取り組んでいる。ヒヤリ、ハット、事故報告書等を皆で検討しあい再発防止に活かしている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル本を基本にスタッフが知識を得るように努力し、日頃の話し合いやケア会議等で話し合っている。又入居者の連絡方法は手近に置いてある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防士がホームに来ての防災の勉強会、消火訓練等を定期的に行なっている。地域の小学校での消防訓練にも参加し、今後地域の住民の協力も得た消防訓練を実施していくつもりである。	○	前回の外部評価で現在、地域の協力的な係わりがあるが更にすすんで運営推進会議への提案等により地域の参加協力のあるホームの訓練の実現を期待するとの指導あるもまだ実現にはいたらず続けて努力して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に十分に家族と起こりうるリスク等を話し合い、事業所側と家族との意志疎通を図っている。面会時に普段の様子を伝えたり、電話での連絡でも話し合いを行なっている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、定時、随時にバイタルチェック、排泄、食事、水分摂取量等の健康チェックをし普段と変わりあれば主治医に連絡、指示をもらい対応し家族にも連絡している。特変事は連絡ノートに記録を残し申し送りも行いスタッフの共通認識情報にして対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については各個人服用の薬の効能、副作用について主治医より情報をもらい承知、症状に変化あれば主治医と連絡を取り対応している。薬は医師の指示通りに服薬できるように注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないように十分な食事、水分を摂って貰うようにし、あまり水分を摂らない入居者にもより多く摂るように声かけしている。又入居者個人に応じた運動をする事により排便につなげたいが、自然排便ない時は薬剤使用による排便コントロールもしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きが自分で出来ない方、声掛けしなければ出来ない方等には毎食後口径ケアの支援、声掛けをし口腔の清潔保持の支援を行なっている。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は行なっていないものの、栄養面を考慮し、入居者の希望を聞きながらメニューを立てている。又水分補給もしっかりしてもらい、脱水症状を起こさないよう気をつけている。食事量が少ないと訴えある時等は捕食を用意している。又各人の摂取状態に応じてキザミ食やトロミつけたりして対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成、知識を持ち、日頃からの手洗い等徹底し予防に心がけている。	○	施設内研修をして研鑽していきたいがまだ実現にいたらず努力していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を購入、新しいうちに使い切るようにしている。調理用器具、シンクについては塩素系洗剤を使用し随時清潔にしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季を感じられるよう木や花を植えたり、入居者と花や野菜を作ったり、玄関ポーチにベンチを置いたりして開放的で出入りしやすい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには季節感のある模様替えをしたり、手作りの物を置き家庭的な温かみのある雰囲気作りをしている。採光、室温、物音等も居心地の良いように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には冬にはコタツ、リビングにはソファー、テレビ、ラジカセ等を置き所々に寛げる空間を作り、入居者が思いおもいに過ごしてもらえるように配慮している。		

あいの里

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の今迄使っていた馴染みの道具等を持って来てもらい本人の混乱につながらないように配慮している。又、エアコン等の室温も好みの温度に設定し安心して過ごせる場所であるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝又は随時に各居室、リビングの換気を行なっている。エアコン、床暖房も外気温に合わせて調節し季節を感じられるように環境に配慮している。夏場はスダレを利用し実益と共に季節感も大切にしている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能に合わせて低床ベッドや椅子、ポータブルトイレ等を置いて入居者の方が自立して生活しやすいようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の進行により錯覚、誤認等見られるがさりげなくスタッフが声かけする事により混乱を招かないように配慮している。又家庭での日常的な作業をスタッフと一緒にすることで日々を活性化し安穏に暮らしてもらえるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺には花壇、玄関ポーチにはベンチを置き外の景色を眺めながら入居者達がお喋りしたり、通りかかった人と交流したり、中庭には物干し場や鉢物を置き、洗濯物を干したり、花への水やり等をして楽しんでもらえるようにしている。		

あいの里

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

あいの里

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

１、入居者に安全で衛生的な場所を提供して家庭生活の延長ケアをして、楽しみのある安穏な生活の継続を提供していきたい。
２、地域と孤立せず、住民の方々がいつでも立ち寄ってくれ交流できる楽しみの場所にしていきたいと思う。
３．職員、入居者同士がお互いを尊重し思いやりを持って楽しみのある日々を送れるようなケアをしていきたい。